

導入機能の検討状況について

1 検討の経過

各導入機能のあるべき姿や整備の方向性、区民意見等の聴取結果、他自治体事例等をふまえ、機能の具体化にあたっての基本的な考え方と機能イメージを整理した。

2 検討状況

(1) 導入機能別の概要

導入機能	検討項目	基本的な考え方（抜粋）
防災	水害対策の クライテリア	・ 浸水時の確実な機能発揮をふまえ、必要な機能を浸水想定高さより上層に配置 ・ 地下は、浸水時の復旧性等をふまえ、極力設けない
	フェーズフリーな庁舎	・ 庁舎、文化センター（屋外も含む）の通常時、災害時の活用例をあらかじめ想定
交流・ 協働	交流空間	・ 日常的な賑わいが生まれる仕組み、空間づくり ・ 気軽に立ち寄ることのできる第三の居場所 ・ 区民等の活動を支援できる場
	情報発信	・ 区民が求める情報を触れやすい場所、方法で発信
性能 (環境)	省エネ・ 再エネ性能	・ 整備時期を見据えた最先端の取組みを推進
	緑地環境	・ 持続可能なみどりの環境を形成
	木材利用	・ 木材文化の発信と、あたたかみのある空間創出
性能 (セキュリティ)	セキュリティ 区分の設定	・ 区民に寄り添う庁舎としてバランスの取れたセキュリティのあり方に配慮 ・ 業務の性質等に応じた立入場所の明確化
	休日等のセキュリティ確保	・ 休日、夜間の適切なセキュリティ区分

(2) アドバイザリー会議からの主な意見（令和 8 年 2 月 2 0 日開催）

防災
・ 庁舎敷地はゼロメートル地帯であり、地下の排水では水害軽減効果は期待できない。 ・ 災害時、避難空間と庁舎機能を分けておかないと業務継続に支障。 ・ 継続的な電力確保が重要な課題。

交流・協働
・こどもの居場所について、対象年齢層・利用目的・設置場所（庁舎か文化センターか）の整理が必要。 ・文化センターの現状（動線のわかりにくさ、ロビーの活用不足等）を踏まえ、新文化センターの機能の見直しが必要。 ・交流・協働機能は、文化センターに置くべきものと区役所として必須のものを明確に分けて検討する必要がある。
性能（環境・セキュリティ）
・環境性能について意見なし。 ・セキュリティの強化と区民への寄り添いの兼ね合いは、ゾーニングの工夫で解決が考えられる。
その他
・令和7年度実施の区民ワークショップなど、丁寧な意見集約をしているが、全てを叶えることは困難なため区として何を重視するか見極めが必要。 ・働く側の視点からのアクセシビリティについても検討すべき。